

これまでの総合教育会議の成果報告

子どもの不安に寄り添う体制の充実（令和2年度検証テーマ） （総合的な不登校対策の推進・子どもの貧困対策の推進）

（千円）

	事業費	特定財源			一般財源
		国・県支出金	市債	その他	
令和3年度予算額	145,000	39,538			105,462
前年度予算額	95,588	28,671			66,917

事業目的	「学びの支援」と「こころの支援」の両面で、子ども一人ひとりに寄り添う体制を充実させる。
------	---

実施状況	<p>（1）総合的な不登校対策の推進について《こころの支援》</p> <p>①小学校校内にサポートルーム（適応指導教室）を新設（R3～） 不登校や教室に入れない児童が多い小学校6校に設置し、教育相談員を配置。不登校の未然防止及び教室復帰に向け、児童への相談及び学習支援を実施。</p> <p>◇子どもの不安に寄り添う体制の充実</p> <p>②訪問教育相談員の配置（R2:6人→R3:12人） 不登校生徒が多い中学校区に計画を1年前倒して12人を配置。子どもや保護者の孤立感を解消するため、児童生徒の家庭への訪問及び面談を実施。</p> <p>③スクール・サポート・スタッフの全校配置（R2:38校※→R3:123校）※R2は教頭等管理職のサポート コロナ禍でもそれぞれの教員が子どもの不安を見過ごさない体制作りのため、小・中学校全校（123校）に配置し、教員の時間外削減とともに教育の質の向上を図っている。</p>
	<p>（2）子どもの貧困対策の推進について</p> <p>①情報提供の充実 支援策をまとめたリーフレット及び子ども食堂ガイドブックをWebに掲載。子ども未来局Twitter・Facebook等で支援情報を発信し、一定のアクセス数があったことから、R3年度からはしずおか子育てハンドブックなど他の媒体にも支援施策の情報発信を広げている。</p> <p>◇学習支援の充実《学びの支援》</p> <p>②学力アップサポート事業（R2はコロナ禍のため新たな学力保障を実施） 市内小学校30校に学習支援員を配置。学習内容の定着に不安がある小学5・6年生の子どもたちを対象につまづきやすい算数の学習支援を放課後に実施。</p> <p>③自閉症・情緒障害学級の非常勤講師の配置（R2:4校→R3:6校） 7人以上かつ4学年以上の児童が在籍する自閉症・情緒障害学級のある小学校6校に非常勤講師を追加配置し、担任と分担して複数学年の授業を行っている。</p> <p>④市長部局が実施する学習・生活支援事業について段階的な拡充 「生活困窮世帯、ひとり親家庭等の子どもへの学習・生活支援事業」は13会場で実施。また「生活困窮者子どもの学習意欲向上事業」は、家庭支援員8名により46世帯で180回実施。</p>



小学校校内サポートルーム



【学力アップサポート事業】



困ったときに開く支援リーフレット

事業効果	<p>○別室登校や登校渋りの児童37人に延べ871回関わり、37人中22人に状態の改善が見られた。（7月末時点）…（1）①</p> <p>○長期欠席の97家庭100人に関わり、延べ1267回の家庭訪問を行った。うち923回面会につながっている。（8月末時点）…（1）②</p> <p>○教員の時間外勤務時間（月別）が4時間52分減少した。また「教員の業務負担軽減につながり子どもに向き合う時間が確保できて助かっている」と答えた学校の割合100%…（1）③</p> <p>○テストの際には、教員が横で文字を読み上げるなどの障害特性に応じた支援を行うことができるため、正答率が7～8割になっている。また、遅刻が減ったり出席日数が増えたりするなどの登校状況の改善も配置校のうち4校で見られている。…（2）③</p> <p>●学力アップサポート事業については、年度末に対象児童に対して学力定着テスト及びアンケートで効果測定を実施予定</p>
------	--